

「町長と話そう、まち育て」タウンミーティング 第3回議事録（要旨）
サークルこまち

日 時：令和4年11月4日（金）10時30分～

場 所：みやき町庁舎・防災センター

テーマ：・今後のみやき町の子育て支援計画

・子育て中の保護者がみやき町に期待すること

出席者：サークルこまち 4名

町長、副町長、健康増進課、子ども未来課、環境福祉課、総合政策課（事務局）

● 次第

1. 開会
2. 自己紹介
3. 注意事項
4. 議題

（事務局）

サークルこまちから、今回のテーマに沿って説明をお願いします。

（サークルこまち A）

サークル参加者から意見を聴取したところ、1歳半児健診や3歳児健診等で発達に気になるところがあると言われたときの相談場所が分からない。医療機関や相談施設に相談する前に予約不要で気軽に相談できる場所が欲しい。気になると言われた後のフォローが欲しい。発達特性を専門にしている相談施設があれば知りたい等の意見がありました。また、医療機関に繋がることにハードルが高いと感じて、自分から相談に行けないという保護者が気軽に相談できるような場所があれば教えて欲しいという意見がありました。みやき町が取り組まれていることや今後の計画で、私たちのこういった意見に繋がる部分があれば教えていただきたい。

（職員 A）

保健センターでは、1歳半児健診、3歳児健診の際に気になるところがあるというような子どもがいた場合、その場で伝え、その後のフォローもしています。今回の場合、フォローが手薄だということで、保護者との行き違いや伝え方が悪かったのではないかと考えています。継続的な切れ目のない支援が基本ですので、電話連絡やそういった医療機関、相談機関等を紹介しながら支援をし

ています。相談の場として、すくすく相談、すこやか発達相談があります。

また、3歳児健診で気になることがあれば、医療機関への受診を勧奨しています。その後、特性や特徴的な傾向があれば、そこに合う相談窓口や医療機関に繋ぎ、受診していただき、その後の結果を町にも返していただいて、継続的な支援をしています。今後はフォローが手薄だと感じる保護者がいないように進めていきたいと思っています。何か気になることがあれば、保健師にお伝えいただければと思います。

(職員 B)

1歳半児健診や3歳児健診で、保健師から見て、気になると感じた保護者には、必ず半年後、1年後などに電話や家庭訪問をしています。保育園や幼稚園、子ども園と相談しながら進めていますので、園の先生を通じて保健師に繋げていただくとより良い支援に繋がると思います。

(町長)

若楠療育園や発達障害者支援センター、キャッチ等がありますが、医療機関だと敷居が高いということで、その前の初期的な相談窓口でいうと、すくすく相談会やすこやか発達相談会を実施しています。行政としては、何かあれば保健師に相談してもらいたい。相談会等の周知のあり方は改善の余地があるかなと思っています。

(サークルこまち B)

幼稚園や保育園に繋がっていることを知りませんでした。小学生になっても情報共有とフォローはしているのでしょうか。

(職員 B)

3歳児健診で気になると言われて、その子が保育園や幼稚園に通園している場合、保護者の承諾を得られれば、園に状況を聞いています。就学前には教育委員会で就学前相談を実施していますので、そちらを案内しています。園からも相談会の案内があると思います。就学するにあたり、気になる子どもについては、学校と園で共有しています。

(サークルこまち A)

私の子どもは3歳児健診で、気になると言われ、医療機関リストとNPO法人が実施している講習会の案内をいただきました。また、すこやか発達相談に2回予約し、相談しました。最終的には、子どもの得手不得手をはっきりさせて、子育てに役立てたいという気持ちがあったので、医療機関を受診しました。園には私から相談の経緯や医療機関への受診について伝えてあります。園からは子どもの気になる部分の指摘をされたことがありません。もし自分から園に働きかけなかったら、園から指摘されることはなかったのかと不安を感じました。保健センターと園の連携という部分で、気がかりがある子の特性の程度で、対応に違いがあるのでしょうか。

(職員 C)

3歳児健診などで面談する中で、保護者が自分の子どもの気がかりな特性に気づきがある場合は、相談会や医療機関の受診を勧め、保護者が不安に思われている場合は、相談会のみを勧めます。面談の状況で、いろんなパターンがあると思います。園との連携は、必ず保護者に園と連携を取ってよいかと承諾を取ります。3歳児健診では見えないところがありますので、そこだけの一面で判断するのではなく、園に3歳児健診での様子を伝え、集団生活や日頃の生活の様子を確認しており、保護者から相談があれば園での様子を伝えるようお願いしています。面談時には保護者に、園の先生に3歳児健診時の様子を伝えて、園での生活の様子を尋ねるよう伝えていきます。

(サークルこまち A)

確認ですが、子どもの様子、保護者の様子は千差万別だと思いますが、それぞれの家庭に合った対応を、その都度されているということですか。

(職員 C)

その通りです。

(サークルこまち A)

分かりました。ありがとうございます。

(職員 B)

園の先生が子どもの様子を保護者に伝えるタイミングはそれぞれで、面談時に伝えられる園もあれば、その都度伝える園もあります。伝えるタイミングは園で見極められていると思います。

(サークルこまち A)

子育て支援のための組織作りについて伺います。もう少し気軽に情報交換や相談ができる場所が必要だと思います。以前、佐賀県の事業で中原に3年間、佐賀県放課後児童クラブ連絡会みやきセンターがあり、そのセンターの利用者や関係者に話を伺いました。保護者に限らず、地域のいろんな立場の方が気軽に行ける場所で、世間話や生活の困りごと、深刻な問題など、様々な相談を受け、行政の窓口につなげていたそうです。また、保健センターで行われていた子育て広場で、曜日と時間は決まっていたのですが、予約不要で気軽に行けた場所だと聞いています。サークルメンバーの中にもそこで知り合いになった人がいます。

(サークルこまち C)

保健センターの子育て広場は、月1回程度開催されていました。1歳くらいまでの子どもの保護者が集まって、気軽に話をできる場所で、その縁がまだ続いています。保健センターの子育て広場

が無くなったことはとても残念でした。保健センターも様々な業務があり、開催が難しくなったのだと思いますが、その広場は保護者にとっていい機会でした。当時は健診以外でも保健師と顔を合わせる機会があり、信頼関係を築くことができました。

(サークルこまち A)

子どもが生まれる際、第1子の時は必ず保健師の家庭訪問があり、また、母子保健推進員も訪問され、手厚いサポートがあるのですが、母子保健推進員から子どもが通園し始めたら訪問の対象ではなくなると言われ、繋がりが途切れてしまいました。また、園は一緒でも小学校は別になり、保護者同士の繋がりが途切れてしまうといったこともあります。子育て広場など、自分の所属や住んでいる場所が関係なく集まれる場所での繋がりはなかなか途切れません。ここにいるメンバーは三根庁舎にあったティアラで知り合いましたが、別の校区に住んでいます。そういった繋がりが持つ場が町の施設にあり、予約なしで行けることはとても意義があると思います。また、子育て支援センターとして、各保育園、幼稚園、子ども園で運営されていますが、コロナ禍にも重なり、未就園児以外は行けなかったり、通園してない園には入りづらいという保護者の意見もあるため、園や学校ではない場所で子育てしている人が誰でも行ける場所がみやき町内にあったらどうかと思っています。

(職員 D)

みやき町には拠点はありますが、受付や予約が必須ですので、その中でも気軽に行ける場所をということだったかと思います。児童福祉法が改正されて、来年4月からは子ども家庭庁ができるにあたり、子ども家庭センターを作るようになっています。現在、子ども未来課と健康増進課で協議をしている段階です。保護者の意見を聞きながら、拠点づくりを進めていくことになると思います。保育園にある子育て支援拠点や保健センターで利用者支援事業をしていますが、今年度からメディカルコミュニティセンター内で利用者支援事業の基本型で「子育て家庭サポートステーションにここ」を運営されています。

(町長)

子ども家庭センターは最近検討を始めました。新規の建物が必要なのか、既存の建物を活用するのはこれから検討していきます。子ども家庭センターを作るにあたって、家庭ごとのケースの情報共有のあり方や保護者対応も含めて、行政側も関係課の連携をどうするかが鍵になると思います。もう一つは、先ほど言われたような気軽に、何でも相談できる窓口の設置が子ども家庭センターにあればと思っています。

(サークルこまち A)

幼児期のサポートは充実していますが、小学生、中学生、高校生のサポートはいかがでしょうか。フリースクールやひとり親家庭の学習支援などありますが、その他にあれば教えていただきたい

だと思います。また、改修中のボランティアセンターについて、子ども第三の居場所づくりとして整備されていますが、どのような構想でしょうか。現段階の教えてられる範囲で、教えていただけたらと思います。

(職員 D)

第三の居場所の対象は、小学生が中心だと考えています。また、中学・高校生は、無料塾のような形を検討しています。第三の居場所では子どもの学習支援を行います。勉強したいという子どもに勉強できる環境を提供したいと考えています。また、各家庭に経済的な格差があり、一般的に学習塾は高額ですので、経済的な支援という意味でも、無料塾を活用し、勉強ができる場を確保したいと思います。社会体験の場の提供もしたいと考えており、内容は社会福祉協議会と検討中です。その他では、生活の中での困り感を相談できるような場所にもなればと思っています。また、距離の問題で連れて行けないなどの意見も出てくるかと思っていますので、送迎を検討しています。まだ検討段階ですが、21時まで利用できるようにしたいと考えています。

(町長)

B&G 海洋センターのプールは元々B&G 財団から寄贈され、運営は町で行っています。財団はスポーツ施設だけではなく、子どもたちのためになるような助成事業もあり、その中に、子ども第三の居場所の助成事業があります。基本的な生活習慣の支援などが要件になっています。21時ぐらいまで預かるように考えていますので、帰りが遅い保護者がターゲットになると思います。また、放課後児童クラブと差別化するため、対象人数は多くはないと思っています。B&G 海洋センターが教育委員会である関係で、建設は教育委員会がメインで行っていますが、その後の運営は子ども未来課が行います。

(サークルこまち C)

どのような相談の体制を取る予定ですか。

(職員 D)

第三の居場所のスタッフは常時4名が必要です。その中の1名がマネージャーとして、相談の対応等を行います。

(サークルこまち A)

ありがとうございます。では、次に移ります。パブリックコメントの募集はホームページだけでなく、SNSを活用して周知してほしいという意見がありました。また、当事者の意見があまり反映されていないように感じる場合があります。こういったタウンミーティングにより解消していけるとは思います。個人からの意見を集める場所を町として設けると良いと思います。

(職員 E)

パブリックコメントは計画書等を作る際に実施します。現在、第三次みやき町総合計画を作成しており、12月にパブリックコメントを実施します。窓口やホームページだけでなく、広報紙や公式LINEでも周知する予定です。

(町長)

パブリックコメントは町が計画書等を作る際に、意見を求める手法です。先ほどの意見では、ホームページには、意見箱のようなものがありますが、LINE等を活用して、気軽に意見を言える場所ほしいということだと思います。町で一番悩ましいのが、情報発信です。広報紙を月に1回発行していますが、見ない人もいます。将来的には町民の大多数がスマートフォンを持っている時代になると思いますので、LINEの普及に力を入れており、上手なLINEの使い方を模索しています。登録者が町民の50%までいけば、家族の中で誰かは登録している状況になります。そうなれば、緊急時の町民への連絡手段として、防災無線だけでなく、LINEを活用することができます。

(サークルこまち D)

過去に、意見を出していた人から返事がこないと聞きました。意見を読んでもらっていると思いますが、どのように対応をされているのでしょうか。

(町長)

パブリックコメントではいただいた意見は、回答を含めてホームページで公開します。意見箱では、回答不要のチェック項目があります。その項目にチェックない場合は、担当課が回答していると思います。

(サークルこまち D)

先ほどの第三の居場所ですが、ボランティアセンターは色々な人が活動しています。これまでの場所は使えなくなるのでしょうか。

(町長)

ボランティアの方々が不安に思われているという話を聞きましたので、説明会をしようと話をしています。基本的にボランティアの方々の会議や研修を行う場所を損なう予定はありません。旧園庭が小さくなりますので、そこで行っていたイベントは、多少しにくくなる可能性はありますが、今までのボランティアセンターでの活動をそのまま継続できる環境は残していく予定です。

(サークルこまち D)

駐車場は足りなくなるかもしれません。

(町長)

対象者次第だと思っています。対象者は20人と見込んでおり、車での送迎になりますが、20人が常時駐車していることはありませんので、何とかなるのではないかと考えています。ただ、こういう新規事業は、色々な意見が出てくると思いますので、変えるべき部分は変えていきたいと考えています。例えば、送迎についても、バスでの送迎の要望が出てくるかもしれないと思っています。そういったところで、できる部分とできない部分はあるかもしれませんが、継続的に検討していかなければいけないと思っています。

(サークルこまち D)

放課後児童クラブや放課後等デイサービスと差別化を図るということでしたが、差別化を図ると差別に繋がるのではないかと危惧しています。

(町長)

その部分をいかに進めるかは課題です。その特別だという部分を極力を感じさせないような努力を他自治体でも行っています。

(サークルこまち A)

次に移ります。町内の保育園、幼稚園、子ども園での使用済みオムツを園で廃棄できないかという提案です。全ての園で同じ対応かは確認できていませんが、個人名のビニール袋を用意して、先生がその子のオムツ交換した際に、その子の袋に入れている園が多いと思います。その細かい作業が無くなれば、感染症予防や働き方改革にも繋がり、保護者と先生それぞれにメリットがあると思います。

最後に出産祝い金についてです。第5子を妊娠した際、出産を後押しする決め手になったのが出産祝い金でしたが、第1子が18歳を超えていたため、支給総額が思っていたよりも、低い金額だったということでした。出産当時はしおりにただし書きがなく、支給決定通知書にも理由の記載がなかったため、問い合わせたところ、理由が判明しましたが、納得いかない想いが続いているということでした。今、ホームページを確認すると支給要件については記載があります。この体験をされた方の意見としては、同じ5人産んでいるのに差があることが納得できないため、出産祝い金について検討いただけないかということでした。

(町長)

先ほどのオムツの話は、風の子保育園も同様ですか。

(サークルこまち C)

子どもが風の子保育園に通園していた時は、オムツは袋に入れて返ってきていました。オムツ使

用率はその子どもによって違いますが、園でオムツを破棄してほしいという保護者は多いです。

(町長)

予算に絡む部分は、予算の規模や実現可能かを検討していかなければいけないと思います。ご意見はいただきましたので、検討していきたいと思います。

また、出生祝い金については、私も相談を受けました。あまり第5子というパターンがなく、その要綱の書き方等、検討が不十分な部分ではあったと思います。それで、不快な思いをされたことは、申し訳なかったと思っています。しかし、どこかで線引きをしなければいけません。上の子が18歳を超えている家庭の第5子と上の子が18歳以下の家庭の第5子での対応の違いで、納得できないという気持ちも理解しています。例えば、第4子が大人になってから第5子が生まれるというケースも考えられます。様々なケースを想定して、そういう場合はどうするのかと議論を行い、ルールを定めています。過去の運用でも、文字にはなっていませんでしたが、同様に対応しています。それを変更すると過去の分にも影響が出てきますので、表記していなかったそのルールを表記すべきという結論に至りました。

みやき町は給食無料化や子どもの医療費補助、出生祝い金等があり子育て支援が充実しています。ただ、ソフト的な支援をもっと充実させたいと思っています。金銭的な施策も無くせませんが、ソフト的な施策を充実させていく方が、子育て支援のまちとして、さらに充実していくと思っています。子育て世帯が生活しやすく、ストレスを抱えにくい環境を作っていきたいと思っています。子ども家庭センターはとても良いきっかけだと思っており、より良い子育て支援のまちになると思っています。

(サークルこまちC)

先ほど、お金の話が出ましたが、出生祝い金とは別に母子手帳交付の際にオムツのクーポン券を配っていただければ、みやき町に来て良かったという保護者は増えると思います。

町長は放課後等デイサービスの事業所はいくつご存じですか。

(町長)

いくつかの事業所は知っていますが、知らない事業所もあると思います。そういった勉強も含めて、これから子育て支援をより充実させていきたいと思っています。このような話し合いも1回きりではありませんので、また申し込みいただいて、他の分野でも問題ありません。こういう意見交換は、私の思いを聞いてもらえるいい機会ですので、双方にとってより良い場になればと思っています。

余談ですが、今、オーガニック農業の勉強会をスタートさせています。オーガニックは難易度が高く、化学肥料や農薬はやらないということは、収穫量が減ることになります。しかし、本当にしっかりとしたものができれば、高い価格で売れるようになります。すべての農家で実現は難しいと思いますが、農家の選択肢の一つとして、オーガニックを検討しています。農家を集めて、勉強会

からスタートしています。私がオーガニックをしたいという根底には、子どもたちの食という部分があります。日本人が食べている農産物に使用されている農薬の中で、アメリカやヨーロッパで使用禁止になっている農薬が日本では未だに使用されています。先進国の中で、日本は発達特性を持つ子どもの割合が高いです。農薬と発達特性との因果関係を指摘する学者が出てきており、そういう農薬を散布されて育った野菜等を食べ続けている結果、発達特性の割合が高くなっているという話が出ていますので、子どもたちのためにもオーガニックを実施していきたいと思っています。他の分野のところからも子育て支援に繋げていきたいと思っています。

(副町長)

みやき町は児童発達支援や放課後等デイサービスの事業所の運営費に対して給付費を支払っています。もちろん利用者の方々も利用費を負担されていますが、賄いきれない部分を給付費として出しています。毎年右肩上がりですので、事業所が増えているだろうと思っています。そういった子どもたちが増えているというのは、認識していますので、その子どもたちが通っていけるような支援は、引き続きしっかりしていかなければと思っています。

(町長)

子育て支援を前面に押し出していきたいと思っています。子ども家庭センターの検討で、色々な変化があると思います。例えば、児童虐待防止の体制作り、仕組み作りをブラッシュアップしたいと考えています。検討段階では住民の皆さんの意見を聞いていきたいと思っています。また、民間の方々の力も借りていきたいと考えています。日常的なケアの部分は、行政だけではマンパワー不足で難しいため、民間と連携していきたいと思っています。

(事務局)

最後に町長から一言お願いします。

(町長)

今後も、子育てのところは、力を入れていきたいと思っています。保護者の皆さんの気持ちも組みながら、頑張っていければと思っています。また、寄り添うみやき町でありたいと思いますので、今後も継続的にご意見いただければと思っています。今日はありがとうございました。